

## 1. 中央区利用状況中間報告（1月末時点）

○令和元年度については、千葉市は台風15・19号の影響での災害に続き大雨による深刻な被害も発生したため、避難所開設に伴う公民館利用の貸出し休止による影響が多大であった。また、避難所開設が今までに例を見ない状況で発生したため、各公民館の通常業務に戻るのが、非常に時間が掛かった。

○松ヶ丘公民館については、市の空調改修工事により令和元年度11月から令和2年度2月末まで休館のため前年との比較はできないが、他中央区8館については、椿森△1,612・川戸公民館△404人を除きすべて増員となっている。また、椿森公民館については、避難民が長期滞在により閉館となっていたため他の館とは異なり、川戸公民館についても、停電被害により止む無く休館があつたため減員したと考えられる。

## 2. 令和2年度公民館年度運営方針・事業計画重点項目等一覧

	公民館名	令和2年度運営方針	令和2年度事業計画 重点項目・特色	前年度からの改善点
1	松ヶ丘公民館	地域住民が安心し、地域の多世代が、活用できる子どもの居場所作りの推進や子ども講座等の拡充を図る。	○今後、学校で学ぶ少年教育事業を前年度より2事業（プログラミング・英会話お菓子つく）を増やした。 ○高齢者に人気のある歴史講座等は継続的に実施	○市民ニーズに合う講座の実施 ○講座実施時期の調整
2	生浜公民館	安心・安全な学習環境づくりに努めながら、利用者への寄り添いを大切にした事業展開を図る。	○利用者の思いや実態に応じた事業内容の工夫と改善 ○施設・備品等の整備と安全に関する訓練や講座の実施	○講座の内容に関する講師との十分な共通理解 ◇講座のねらい ◇利用者への配慮 ◇効率的な学習形態等
3	新宿公民館	利用が少ない層にも目を向け、幅広い層の取り込みを図る。	・前年度なかった未就学児とその親を対象とした家庭教育講座を1講座（全3回）を実施する。 ・地域にある専門学校と連携した講座を実施する。	前年度人気の高かった調理系の講座や物作り系の事業は継続しつつ、現代的課題のほか俳句や日記のつけ方など新しい講座を入れた。
4	宮崎公民館	地域住民の学習要望を把握して、魅力ある事業の実施に努める。	地域団体や近隣施設との連携を重点項目とし、宮崎公民館避難所運営委員会や蘇我コミュニティセンターとの共催事業を計画。	地域にファミリー層が多いことから土日祝日開催の事業を増やした。
5	葛城公民館	様々な教育機関との連携を図る。	近隣の「千葉大医学部」「県立千葉高等学校」をはじめ、「市内私立大学」、NPO、千葉市生涯学習ボランティアセンター等、幅広い組織に講師を依頼する。	就学前児・中学生対象講座を設定。 講座の見直しを行い、新規事業を積極的に取り入れる。
6	末広公民館	地域住民の学習要求に応じた事業展開を図る。	少年教育では、地域の子どもたちを対象とする事業を継続・充実していくこととする。また、子どもの居場所作り事業での空き室等の開放と児童・生徒への周知を工夫し利用促進を図る。また、成人教育の人気講座の充実も図る。	夏休み子ども工作教室、布ぞうり教室、スマホ教室に応募者が集中したため、講座数を増やす。また、オリンピック・パラリンピック機運醸成のための講座や、着付け教室・パン作り教室の成人向け講座を増やした。
7	椿森公民館	○地域住民のニーズに応じた事業を展開し、より地域に根ざした公民館を目指す。 ○サークルの活性化を支援する。	○少年教育の事業を春に企画した。 ○応募の多かった料理教室を引き続き企画（同じ内容）した。	○企画段階より、PTA役員と連携を図り内容の充実をめざす。 ○4日間（半日）のパソコン講座を2日間（終日）に縮め、内容も画像処理に変えた。
8	川戸公民館	利用の少ない若年層を取り込むため、乳幼児の子育て支援の実施や地域高齢者の利用促進を図り、地域コミュニケーションの充実を目指す。	家庭教育及び高齢者教育講座を前年度に比して各2事業、地域コミュニケーションを図るためにコンサートを1事業増加させた。地域利用者の学習ニーズに応える事業展開を図る。	利用の少ないファミリー層向けの講座やアンケート結果をもとに、参加者の多い高齢者向けの講座、地域コミュニケーション向上のためのコンサートの充実を図った。
9	星久喜公民館	子ども・親子・高齢者を問わず多くの方が足を運び共に学び笑顔で帰る、地域のステーションとなりうる公民館運営を目指す。	青少年教育は親子体験、幅広い年齢層で平和をテーマにした歌物語を取り入れた。成人教育は人気のある歴史・古典、山野草体験を継続し、新たな事業も取り入れ利用促進を図る。	アンケート結果や参加者の意見を参考に、希望の多かった講座を継続。また、クラブ等に発展しそうな講座を新たに取り入れた。